



書評

[評者]

増井 伸高

札幌東徳洲会病院救急センター長

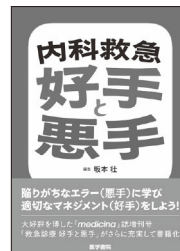
内科救急 好手と悪手

坂本 壮 編

●B5 頁392 2025年8月

定価：6,270円(本体5,700円+税10%)

[ISBN978-4-260-06175-9] 医学書院刊



「ドキッ」としました。自分が研修医のころにやってしまった失敗が、いくつも書かれているからです。

- ・酸素化が保持された心不全だからのんびりする
- ・誤嚥性肺臓炎と誤嚥性肺炎を区別せず、全例で抗菌薬を投与する
- ・妊娠反応検査の偽陰性を知らない

本書はERで研修医が「好手」と思うけど実は「悪手」というマネジメントが390個も掲載されています。症候・疾病の数も85もあり、これだけあればERのほとんどの領域をカバーしていることになります。さらに各悪手が、なぜ悪手なのか丁寧に解説されています。そもそも悪手を選んでいる医師には悪気がないので、それがなぜ悪手なのかの懇切な説明は必須なのです。

読んでみると、過去の苦い経験を思い出します。「あー20年前に、これが悪手だと教えてほしかったよ……」と呟いてしまいます。こんな本が自分の研修医時代に欲しかったなあ。今の研修医は、先輩がしでかした悪手を疑似体験できるので、本書を読まない手はありません。未然に悪手マネジメント

を熟知し、上級医からツッコミを受けないよう事前準備するのが令和の研修医の学習方法です。

また上級医は本書を片手に悪手をリストアップしておきましょう。そして研修医が悪手を選びそうなチョット手前でツッコミです。早すぎる介入は研修医の伸びしろを消すことになりますし、悪手を選んでからでは遅すぎます。熟練の漫才師がそうであるように、熟練のER医師はツッコミへのタイミングに誇りを持ちます。

一方でツッコミばかりではよくありません。「それは悪手!」「あれも悪手!」「これも悪手!」と連発ツッコミは研修医も心が折れてしまいます。そう、イマドキの若手医師へは褒めることも忘れてはいけません。え!?どこを褒めていいかわからない? そんなときは、本書の好手が褒めポイントになりますヨ。あるいは悪手を選ばなかったマネジメントも褒めるポイントです。悪手と好手を熟知した上級医が適度にツッコミ、適度に褒める「ツンデレ」教育が令和のERには求められているのです。